

プログラム

 1st Stage

男声合唱組曲「富士山」 詩/草野心平・曲/多田武彦
 I 作品第壹
 II 作品第肆
 III 作品第拾陸
 IV 作品第拾捌
 V 作品第貳拾壹 指揮/石坂幸一 (20)

 2nd Stage

「はじまり」 詩/工藤直子・曲/木下牧子
 「鳥の歌」 曲/クレマン・ジャヌカン
 混声合唱組曲 方舟 から
 「方舟」 詩/大岡 信・曲/木下牧子
 【賛助】 合唱/長野高校合唱班・指揮/小林 泉 先生

— 休憩 —

 3rd Stage

I 「秋のピエロ」 詩/堀口大学・曲/清水 脩 指揮/宮下荘治郎 (19)
 「自由の歌」 曲/シュトゥツ 指揮/塚越憲二 (22)
 「キリエ エレイソン」 詞/典礼文による・曲/デュオウバ
 指揮/堀内 篤 (21)
 II 草川 信 の作品から
 ピアノ/深沢雅美
 「夕やけこやけ」 詩/中村雨紅 指揮/和田 朗 (29)
 「ゆりかごの歌」 詩/北原白秋
 「どこかで春が」 詩/百田宗治
 「みどりのそよ風」 詩/清水かつら 二重唱/名取敦子 (29)・下平浩美 (43)
 「月待草」 詩/村田米四 独唱/塚田洋丈 (46)
 III 「未来」 詩/谷川俊太郎・曲/高嶋みどり 指揮/佐野秀和 (50)
 ピアノ/深沢雅美
 IV 「柳河」 詩/北原白秋・曲/多田武彦 指揮/堀内征治 (16)
 「雨」 詩/八木重吉・曲/多田武彦 指揮/三ツ木辰巳 (23)
 V 「鳥が」 詩/川崎 洋・曲/新実徳英 指揮/小早川邦彦 (34)
 ピアノ/深沢雅美
 「夢みたものは」 詩/立原道造・曲/木下牧子 指揮/和田 朗 (29)

* 会員氏名末尾の () 内は卒業回期

長野高校創立100周年記念


 Kite Society Concert

カイトソサエティー演奏会

平成11年10月24日(日) 14:00 開演

メルパルクホール(長野郵便貯金会館)

主催/ カイトソサエティー(長野高校合唱班OB/OG会)
 後援/ 長野高等学校同窓会

カイトソサエティー(長野高校合唱班OB/OG会)

事務局: 三ツ木 辰巳 E-mail: mitsuki@janis.or.jp
 〒381-0014 長野市北尾張部 362-3 Tel/Fax 026-241-4414

ごあいさつ

カイトソサエティー会長 堀内征治 (16)

本日はカイトソサエティーの演奏会にお越しいただきありがとうございました。カイトソサエティーは長野高校合唱班のOB、OGのメンバーによって構成されている会ですが、単なるOB会としての活動のみならず、合唱への熱い思いを継続して、ささやかながらコンサートの開催もして参りました。

毎年1回というペースでコンサートを開催していたこともありましたが、全国各地に散らばっているメンバーがこのように活動することはなかなかままならず、このところしばらく開催が滞っておりました。そんな折に母校長野高校が創立100周年を迎えることになり、この機に記念演奏会をという声が高まって、本日の演奏会として結実したわけでありませう。

本日のステージでは、この春高校を卒業したばかりのOB/OGから、50代半ばを迎えたOBまで幅広い年齢層の皆さんが、全国各地から駆けつけて参りました。久々に顔を合わせるメンバーもおりますし、中には少々練習不足という方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし、「同じ釜の飯」のメンバーです。心をひとつに歌っていけるものと思っております。

また、母校の大先輩にあたる草川信先生の名曲もとりあげてみました。懐かしいメロディーの中に「金鶏健児」の思いのたけをぶつけさせていただければ幸いです。拙い演奏かとは存じますが、どうぞごゆっくりお聴きくださいませ。

最後になりましたが、ご後援いただきました長野高校同窓会およびその役員、会員の皆様方に厚く御礼申し上げます。

本日の歌声が、お越しいただいた皆様と参集下さったカイトメンバーそれぞれの、明日への大いなるエネルギーになることを願ってご挨拶いたします。

"カイト"の誕生と今

会の名称は長野高校校章の金鶏 (KITE [英] = "鶏") による。「歌うとんびの仲間」。1965年(昭和40)8月、聖高原聖池畔で結成。初代会長は須田勝弘さん(故人)。

当時長野高校合唱班は、夏休みにキャンプ合宿を行っており、そこに卒業生有志も参加することが恒例になっていました。聖湖キャンプ場は、ちょうどその年の合宿の会場だったわけです。そのころ、長野高校合唱班は徐々に中央の合唱界に頭角をあらわし始めており、「長野に男声合唱の妙あり」と囁かれていました。そのような状況を受けて、合宿会場に集まったOBからは、「現役諸君に、コンクールと金鶏祭以外にも演奏の機会をもたせてあげたい。現役諸君とともに定期的に演奏会を開催しよう」という声があがり、その日のうちにOB会が結成されました。

第1回演奏会は翌年4月に開かれ、その後、毎年合唱班の皆さんと共に盛大な定期演奏会を実施してきましたが、第20回定期演奏会(1986.8.10)の後、活動休止状態となっていました。

一方、現役合唱班はこの時期に女声合唱班と男声合唱班の併設時代を経て、男声合唱団から混声合唱団に変貌を遂げ、活躍するようになりました。

1999年の5月に、ふたたびカイトで歌おうではないかという機運が高まって、長野高校の合唱班に籍を置いたすべてのOB、OGの組織として「新生カイト」が誕生し、従来のカイトの活動を継承していくことになり、今日の演奏会を迎えています。現在の会員はおよそ500人。

演奏曲目によせて

■ 1st Stage 男声合唱組曲「富士山」について

大詩人草野心平が戦時中から戦後にかけて綴った詩集「富士山」から選んだ5つの詩に、多田武彦が1956年(昭和31)に作曲をしたこの組曲は、日本の男声合唱団の重要なレパートリーです。詩の持つ空間的な構図や淡い色彩などのイメージを、ダイナミックかつ繊細な男声合唱の音色によって表現します。

- I 富士のふもとに広がる花々に蝶が舞い、鳥、獣、村人、官吏などが一体となった富士の祭典。この詩集の序曲。
- II 川のほとりに溢れる春の明るい光。しかし私の心は重くふさがれている。
- III さくらんぼ色の空は沈み、浮かんだ金隈取りの雲一点。その空に向かい、ひとり静かに祈るが如く黙するシルエットの富士に、永遠の存在を感じる。
- IV 夕日に照らされ黄銅色に輝く富士が地球の中心にまで根を下ろす。富士の重量感と、豊旗雲が浮かぶ天との対比。
- V 夕映えの富士と、翠藍(暗い藍色)の空から見えないガラスのように降り注ぐ宇宙線の大驟雨。目に見えない大宇宙のエネルギーを感じ、日本の洋々たる未来に贈る詩人のメッセージ。

■ 2nd Stage 賛助ステージ曲目

- ・「鳥の歌」
ルネッサンス後期の世俗曲。鳥のさえずりなどを模した擬音は、森の中の自然を目のあたりにしている感じをうける。
- ・「方舟」(混声合唱組曲「方舟」より終曲)
曲全体が4分の5拍子。極めて力強い盛り上がりが特徴。

■ 3rd Stage

- ・「秋のピエロ」(男声合唱組曲「月光とピエロ」より第2曲)
男声合唱の表現効果を知りつくした作曲者により、エキゾチックな詩情が哀愁をこめた曲として仕上げられている。
- ・「自由の歌」
我等が班歌として歌い継がれてきた曲。この曲を歌うとき、誇り高き学生時代の自由への思いと情熱がふつふつと沸き上がる。
- ・「キリエ エレイソン」(荘厳ミサ曲の第1曲)
作曲者は19世紀後半の教会オルガニスト兼合唱指揮者。フランスの男声合唱団協議会オルフェオンの会長。そのオルフェオンのパリ大会のために作曲された。かつてコンクールの自由曲としてもよく歌われた。
- ・「未来」(混声合唱組曲「風に鳴る笛」より終曲)
未来への明るい夢や希望を力強く伸びやかに歌い上げた曲。ピアノと合唱が対等に扱われ、合唱伴奏つきピアノ曲のように作曲されている部分もある。
- ・「柳河」(男声合唱組曲「柳河風俗詩」より第1曲)
作曲者の処女作。詩人がほろびゆく町として描いた故郷柳河の、もの哀しくも美しいその土地へ旅人をいざなう導入曲である。

- ・「雨」(男声合唱組曲「雨」より終曲)
作曲者自身が、自分の鎮魂曲のつもりで書いたという。キリストを深く信仰した詩人の、生に対する純粋さが伝わる名曲である。
- ・「鳥が」(混声合唱組曲「やさしい魚」より第4曲)
「鳥も人も花も、見た目の形状ほど、実はお互いになんか変わってはいない、血のつながった存在なのだ」という気持ちが私にはある。」(作詞者の言葉より)
- ・「夢みたものは」
作曲者が友人の結婚祝に送った曲。祝婚歌にふさわしく、牧歌的な明るさと甘さに満ちた曲である。

■ 作曲家 草川 信 について

多くの日本人の原風景とも言える「夕やけこやけ」をはじめ、たくさんの童謡を残した草川信は、1893年(明治26)旧松代藩士の子として長野市県町に生まれた。長野師範附属小学校から長野中学(現長野高校)へ進み、若き音楽教師福井直秋(後に武蔵野音楽大学を創立)と出会い、強い感化を受け、音楽の道を志すこととなる。

東京音楽学校(現東京芸術大学)を卒業し、バイオリンを中心とした器楽曲の作曲をしていたが、童謡誌『赤い鳥』への参加をきっかけに童謡作曲家として中心的な存在となる。以後、本日の演奏する曲をはじめ「汽車ポッポ」等、その数はおおよそ400曲にもほり、バイオリニストらしい柔らかくてあたたかいメロディーは子どもの頃に見た風景、ふるさとの郷愁に満ちている。1948年(昭和23)没。

◆ (長野高校合唱班指揮者) 小林 泉 先生 のご紹介

1991年(平成3)から長野高校音楽科教諭。合唱班のほか、吹奏楽班、管弦楽班の顧問を兼任。先生の温かな人柄と情熱あふれる指導のもとで、各班それぞれに大活躍している。

◆ 長野高校合唱班 のご紹介

1986年(昭和61)より混声となる。今年6月には第26回定期演奏会を開催。この夏のNHKコンクール県大会では、金賞を受賞した。少人数ながら迫力ある歌声を聞かせてくれる。

◆ (ピアニスト) 深沢 雅美 さん のご紹介

長野市出身。全日本学生音楽コンクール長野県大会中学校の部第1位。桐朋学園大学音楽学部ピアノ科、同研究科修了。PTNAピアノ・コンペティション特級デュオ部門全国大会において奨励賞・ソニー賞を受賞。杉本令子、大島妙子、岡部由美子、斎木隆、大島正泰、A.ベピシェッリ、J.F.エッセー、M.クリストの各氏に師事。

現在、桐朋学園大学音楽学部「子供のための音楽教室」長野教室講師、長野県小諸高等学校音楽科非常勤講師、ヒオキ楽器講師を務める傍ら、ソロ、室内楽、デュオなど演奏活動を行なっている。97年に柳沢京子作詩、三枝成彰作曲の「千曲川讃歌」創作披露演奏会でピアニストを務めた。来月25日には東京、カワイミュージックショップ青山にてリサイタルに出演予定。